

県立水戸桜ノ牧高校 柏秀子司書

探究学習の拠点に



小・中・高校で2020年度から順次実施される新学習指導要領。水戸市の県立水戸桜ノ牧高校(藤田知巳校長、全生徒954人)で学校司書を務める柏秀子さんは「新学習指導要領が求める探究学習の拠点こそ



「昇降口の横に図書館がある学校って珍しいんです」と、笑顔で新聞を開く学校司書の柏秀子さん=水戸市の県立水戸桜ノ牧高校

が、学校図書館」と、本や新聞の活用を呼び掛けています。「中でも新聞は社会とつながる入り口、探究学習には欠かせない教材です」。柏さんは毎朝、新聞から「記事を選び、関連本を展開する「ニュースの本棚」を展開するなど、環境づくりに努めています。

「自ら見いだした問いに、情報を探して、分析し、考えをまとめ、根拠を示しながら、その考えを他者に伝える」ということは探究学習の基本。社会を知れば問いが広がります。「ニュースの本棚」は、生徒に社会とのつながりを意識して生活して

学校図書館 「ニュースの本棚」展開



ニュースに関連する本を展示している「ニュースの本棚」(「血液1滴でがん13種検出」のニュースから)

「文武両道を目指す学校なので、部活動や進路に関わるニュースは、関心が高いですね」。図書館は昇降口横と好立地。展示後は、館内で引き続き紹介する場もあります。

図書館で現在配架中の新聞は、中高生向けの新聞を含めると全部で7紙。「普段は部活動の試合結果を見たい」と新聞を読みに来る生徒が多いですが、授業で新聞を活用する課題が出されると、利用が一気に増えます。2週間過ぎた新聞は、自由に生徒に利用してもらえるように、まとめて置いておくんです。

もらったための試みです。展示場所は図書館内ではなく、昇降口から教室に向かう途中の通路や階段の踊り場など。毎日愛えて、図書館にあまり来ない生徒にもアピールしています。

「文武両道を目指す学校なので、部活動や進路に関わるニュースは、関心が高いですね」。図書館は昇降口横と好立地。展示後は、館内で引き続き紹介する場もあります。

3年生は、記事を切り抜きノートに貼って感想を書く「新聞を読む」活動があります。受験前は社説を読み、小論文や面接対策に役立てています。

図表や写真など資料と共に実用的な文章を読み解く力を付けるのに、新聞は格好の教材。柏さんは「物語だけでなく、いろいろな性質の文章に触れられる環境を、大人が整えてあげなければなりません。探究学習は時間も、手間もかかります。教科担当教諭の授業支援など課題にも取り組んでいきたいです」と学校図書館の充実に力を込めます。(次回は来年2月14日掲載)

1、2年生は各自テーマを一つ決めて調べたことを、年度末、レポートやポスターセッションの形で発表する探究学習があります。本・雑誌、インターネット上の資料、新聞など多様な媒体がありますが、最初のオリエンテーションで、柏さんが強調するのは「必ず複数の資料を使って調べること」。